

詳しく注目すべきところである。

2、各派農民組合の現状

a、日農九州同盟會

昭和七年四月日本農民組合本部の國家社會主義政黨支持の聲明と共に之を従ひ、更に本年六月本部中央委員會に於て國社黨支持を取消し皇道會を支持することゝなるや即ち亦其の方針の下に進み、遂に十一月三日日本同盟會を母体として皇道會福岡縣聯合會を結成したのである。其の態度既にかくの如であるが故に二月十一日は街頭行進を敢行建國祭に参加してメーデーを排し、或は五・一五事件被告の救援運動を計劃する等國家主義的右翼農民組合たるの旗幟を明かにしてゐる。従つて其の經濟闘争に於ても現實に立脚

し常に小作調停委員會或は民事裁判に訴へ戦術概ね合法手段に依り穩健なる主義主張を以て臨み、組合大衆化の目的を達せんことに努めつゝあり。故に本年施行の町村會議員選舉に當つては候補者六十一名中三十九名の議員を當選せしめ、前回の二十三名に比し多大の進出を見るに至つたのである。而して本年十月より機關紙として九州農村新報（旬刊）を發行し、組合状況の報導農民大衆の組合意識昂揚に努めつゝあり。かくて現に在聯合會五、支部一一、組合員約五、〇〇〇餘を包擁し、指導統制宣しきを得て順調に發展し福岡地方農民組合の最大勢力としての存在を有するのである。

b、全農（總本部派）福岡縣聯合會

昭和六年秋以來幾多の迂餘曲折を経て約一年後の昭和七年